

Quick Search

読者の皆様の関心事をキーワードとしたインデックスです。必要な情報への迅速なアクセスにご活用ください。

ビジネスモデル

さまざまな経営資源を活用し、付加価値の創造と資産戦略により収益を生み出すビジネスモデルをご説明しています。

page **2**

経営者の考え

中期経営計画「Brand-new Deal 2014」の進捗と今後の方針や、果たすべき使命をはじめとする商社経営に対する想い等を、社長の岡藤が自らの言葉でご説明しています。

page **6**

成長ストーリー

幅広い読者の皆様に当社の経営戦略をご理解いただくために、策定の背景から1年目の進捗、2年目の方針という流れに整理して中期経営計画「Brand-new Deal 2014」を簡潔にご説明しています。またCFOインタビューでは、収益拡大を支える財務戦略を中心に説明する他、事業投資に関する考えもご案内しています。

page **14**

具体例による ビジネスモデルの解説

当社のビジネスモデルが実際の戦略で機能している様子をご理解いただくために、資産戦略については、過去に遡り、「再構築」から「バランス」、「収益基盤の拡大」といった進化の歴史をご説明し、また、付加価値の創造については、具体的事例をご紹介します。

page **24**

業績データ

過去10カ年の主要経営指標、過去5カ年の事業セグメント別業績推移等の業績データを集約して取上げています。当社株主帰属当期純利益の過去10カ年の主な変動要因や資源エネルギー関連の持分権益数量等も掲載しています。

page **38**

各事業セグメントの説明

各事業セグメントのさまざまな構成比やビジネスポートフォリオ、業績概況、成長戦略とその背景となる機会やリスク、CSRの基本方針や事業活動を通じたCSR等を、図表を用いながらご説明しています。

page **46**

企業の社会的責任

CSRに関する基本方針や、CSR上の重要課題（マテリアリティ）、サプライチェーン・事業投資におけるCSRマネジメント等、総合商社の事業活動の特性を踏まえた切り口で、当社のCSR活動をご説明しています。第三者による取扱商品のサプライチェーン視察をルポ形式でご紹介しています。

page **70**

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス活動をご説明すると共に、取締役、監査役及び執行役員の紹介を行っています。社外取締役からのメッセージや、リスク管理の例として投資に関する意思決定プロセス等も掲載しています。

page **86**

Contents

<p>➔ 2 伊藤忠商事のビジネスモデル</p> <p>3 ビジネスモデルの背景となった事業展開の進化</p> <p>4 進化した事業展開に相応しいビジネスモデル</p> <hr/> <p>➔ 6 株主・投資家並びにすべての ステークホルダーの皆様へ</p> <hr/> <p>➔ 14 新たな成長ステージの伊藤忠商事</p> <p>15 「Brand-new Deal 2014」の背景</p> <p>16 2013～2014年度 中期経営計画 「Brand-new Deal 2014」</p> <p>17 2013年度の実績</p> <p>18 株主価値</p> <p>19 2014年度 短期計画概要 (IFRS基準)</p> <p>20 CFOインタビュー</p> <p>22 伊藤忠商事の事業投資に関する考え</p> <hr/> <p>➔ 24 特集 付加価値の創造と資産戦略を両輪に 資産戦略</p> <p>26 PHASE 1 再構築 2000年3月期～2005年3月期</p> <p>27 PHASE 2 バランス 2006年3月期～2011年3月期</p> <p>28 PHASE 3 収益基盤の拡大 2012年3月期～</p> <p>付加価値の創造</p> <p>30 ブランドマネジメント—繊維ビジネス</p> <p>30 コーディネーション—中国食料ビジネス</p> <p>31 商社機能の提供 & ブランドマネジメント—Doleビジネス</p> <p>32 商社機能の提供—自動車ビジネス</p> <p>34 経営ノウハウの提供 —European Tyre Enterprise Limited</p> <hr/> <p>➔ 38 Numbers (業績データ)</p> <p>38 10カ年の連結業績推移</p> <p>42 10カ年財務サマリー</p> <p>44 オペレーティングセグメント別業績推移 (5カ年)</p> <hr/>	<p>➔ 46 Operating Segment (各事業セグメントの説明)</p> <p>46 ■ 繊維カンパニー</p> <p>50 ■ 機械カンパニー</p> <p>54 ■ 金属カンパニー</p> <p>58 ■ エネルギー・化学品カンパニー</p> <p>62 ■ 食料カンパニー</p> <p>66 ■ 住生活・情報カンパニー</p> <hr/> <p>➔ 70 CSR (企業の社会的責任)</p> <p>70 伊藤忠商事のCSRとは</p> <p>72 CSR上の重要課題 (マテリアリティ) 持続可能な資源の利用 (サプライチェーン・ルポルタージュ・プロジェクト) 人権の尊重・配慮、気候変動、地域社会への貢献</p> <p>78 ■ サプライチェーン・事業投資におけるCSRマネジメント</p> <p>80 ■ 環境への取組み</p> <p>81 ■ 人権の尊重</p> <p>82 ■ 社員との関わり</p> <p>83 ■ 「朝型勤務制度」の導入</p> <p>84 ■ コンプライアンス</p> <p>85 ■ 社会貢献活動</p> <hr/> <p>➔ 86 コーポレート・ガバナンス</p> <p>86 コーポレート・ガバナンス体制の概要</p> <p>88 内部統制システム</p> <p>90 2014年3月期のレビュー</p> <p>92 取締役、監査役及び執行役員</p> <hr/> <p>➔ 95 グループ運営体制</p> <p>95 海外・国内店</p> <p>96 主要子会社及び関連会社</p> <p>101 会社情報/株式情報</p> <hr/>
--	---

編集方針

「アニュアルレポート2014」では、近年、国際的に議論が進む開示フレームを意識しつつも、定型化の回避に留意しました。また、任意開示としての位置付けを念頭に置きながら、株主・投資家をはじめとする幅広い読者の皆様が、当社をより深くご理解いただけるよう、経済的側面と社会・環境的側面の両面から、当社の価値創造活動の実像を描写するよう努めました。

決算に関する詳細情報

2014年3月期決算の詳細については、有価証券報告書をご覧ください。

URL: http://www.itochu.co.jp/ja/ir/doc/annual_security_report/pdf/security_90.pdf

報告対象範囲等

■ 対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
(一部に2014年4月以降の活動内容を含みます)

■ 対象組織

伊藤忠商事単体及び伊藤忠グループ

■ 会計基準

別途記載がない限り米国会計基準に従っておりますが、一部に国際会計基準 (IFRS) による記載を行っております。